



ぎふ 木育大 交流会

～ 森の子育ち・親育ちフェスティバル～

開催結果報告書

この会は、岐阜県内の森のようちえんやプレーパークの実践者の皆さんとともに準備会を重ねて企画しました。
当報告書は、岐阜県のホームページで公開しています。

[ぎふ木育大交流会](#)

[検索](#)

開催日：平成27年9月27・28日

場 所：岐阜県立森林文化アカデミー、環境保全モデル林「美濃市古城山」

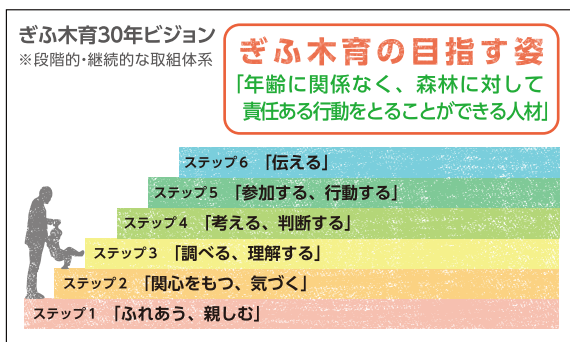
主 催：岐阜県

後 援：岐阜県教育委員会、森のようちえん全国ネットワーク

はじめに

私たちの生活は、「森」によって支えられています。例えば、森林がもつ、水を蓄える機能、山崩れ防止機能、心に安らぎをもたらす機能などは、目には見えにくいですが、私たちの暮らしを支えています。

岐阜県は、面積に占める森林の割合が82%で全国で2番目に多い日本有数の森林県であり、産業や生活に根付いた独自の「木と共生する文化」を育んできた歴史があります。こうした文化を次世代につないでいくため、「豊かな自然を背景とした森と木からの学び」を「ぎふ木育」と定義し、平成25年3月に「ぎふ木育30年ビジョン」を策定しました。



このビジョンにおいては、「森林に対して責任ある行動をとることができる人材の育成」を最終目標に、人が生まれてから次の世代を育てるための30年間を目安として、段階的・継続的な取り組みをステップ1から6として示しています。ビジョンを県民の皆さんが共有することにより、森林に関わる様々な主体によるさまざまな活動がそれのみで完結するのではなく、次のステップへとバトンを渡すように、「つながり」を意識し、目指す姿へと一步一步進んでいくことを目指しています。

子育て中のお母さんたちを中心に活動されている「森のようちえん（自然の中で子どもの自主性を尊重した保育や幼児教育）」は、人格形成に大きく影響する幼児期に自然と触れ合う機会を増やす活動で、岐阜県においても、11年前にはじめて活動団体が生まれ、近年は急速に活動団体が増えている状況です。また、「森のようちえん」と同じく自然の中で子どもの自主性を重んじる遊び場「プレーパーク」も近年注目を集め、活動団体が増えています。

今回、県内の「森のようちえん」及び「プレーパーク」を実践する団体に声をかけ、実践する皆さんやそういった活動に興味のある皆さんを対象とした「ぎふ木育大交流会」を初めて開催し、2日間で述べ700名を超える参加者があり大成功に終わりました。こうした場で生まれた人と人とのつながりは、より多くの県民が「ぎふ木育」を経験し、様々な立場で岐阜県の森林を支えてくれる“森の応援団”になってくれるための大きな可能性を感じさせるものでした。

これからますますこうした活動が盛り上がり、森と人、人と人とのつながりが広がっていくことを期待しています。

岐阜県林政部
恵みの森づくり推進課



タイムスケジュール

9/27日

10:00～12:00 はじめての「森のおさんぽ」「森のようちえん」「プレーパーク」
体験会(初心者向け)

13:00～14:00 講演会「子育てを楽しもう！」

～子どもは自然の環境の中で、心も体も豊かに育ちます。おとなも一緒に心身を開放しませんか～



講演者 柴田 愛子さん (りんごの木子どもクラブ代表)
保育者 / 絵本作家

横浜市都筑区内3施設に1歳親子未就学児約100人が通う未認可保育施設を設立。
1982年からの設立主旨『子どもが主役の、子どもの心に添った保育』を実践する傍ら、
育児雑誌、保育雑誌などに寄稿、多数の育児書も手がけるほか、子育て支援広場や
保育園、幼稚園、小学校の親の会など全国各地での講演、保育士向けセミナー等を実施。

14:30～15:30 パネルディスカッション&ワークショップ

～柴田さんになんでも聞いてちょうだい～

16:00～18:00 分科会
GUEST



森のようちえん全国ネットワーク
代表 内田幸一さん



森のようちえん「てくてく」
園長 小菅江美さん



NPO法人ゆめ・まち・ねっと
代表 渡部達也さん・美樹さん



美濃加茂市里山再生プロジェクト
美濃加茂市長 藤井浩人さん

9/28日

10:00～12:00 / 13:00～15:00 分科会 / 15:30～16:30 全体会

分科会 「森のようちえん」や、「プレーパーク」に子どもを通わせてみたい、自分で始めてみたい、
という皆さんと、すでに実践している皆さんが想いを共有し、次の一歩を共に考えます。

時間	番号	分科会タイトル	講師(敬称略)
27日 16:00 } 18:00	①	「森のわらべ」の10年を振り返って	森のわらべ多治見園 浅井智子
	②	日常の遊び場～だれでも始められるはじめの一歩	プレーパーク楽風 前野学美
	③	遊びの中で生きる力を育てる～子どもの遊びはAKB!?	NPO法人ゆめ・まち・ねっと 渡部達也・美樹
	④	森のようちえんにとって好ましい場所づくりとは?	岐阜県立森林文化アカデミー 萩原ナバ裕作
28日 10:00 } 12:00	⑤	森のようちえんにおける安全管理～森のわらべの実践より～	森のわらべ多治見園 奥村則子、山口貴子
	⑥	森のようちえんってどんな保育?～大切なことを「続けていく」こと～	森のようちえん「てくてく」 小菅江美
	⑦	行政がはじめた森のようちえん	美濃加茂市長 藤井浩人・里山再生プロジェクト
	⑧	お母さんのための森づくり講座～私たちにも出来ること～	林業女子会@岐阜 寺田菜穂子
	⑨	森のようちえん 30年続けて見えてきたこと	森のようちえん全国ネットワーク 内田幸一
	⑩	子どもは今を輝いてこそ生きる～遊び場のステキな子どもたち～	NPO法人ゆめ・まち・ねっと 渡部達也・美樹
28日 13:00 } 15:00	⑪	森では子どもより大人が育つ?～親育ちにまつわる座談会～	森わら浅井智子・じゃん☆ばけ林育子・ゲスト小菅江美
	⑫	遊び場が支えた思春期の子どもたち～何気ない日常を重ねるその先に希望がある～	NPO法人ゆめ・まち・ねっと 渡部達也・美樹
	⑬	森のようちえんの認定制度を考える～長野県の事例を参考に～	森のようちえん全国ネットワーク 内田幸一

次ページ以降の記録は、運営に協力していただいた有志スタッフの記録メモ等をもとに作成しています。

体験会

初心者向け

はじめての「森のおさんぽ」「森のようちえん」「プレーパーク」体験会

自然の中でのびのびと、子どもの自主性と五感体験を大切にした子育てで……まずは一緒に体感!



参加者数

森のおさんぽ 24組 森のようちえん 21名 プレーパーク 多数

プレーパークでは、プレーリーダーが参加者の遊び心を上手く引き出し、会場が和やかで賑やかな雰囲気を出していたため、午後からの盛り上がりにつながっていきました。

森のおさんぽと森のようちえんについては、こんな身近な自然でも遊べるんですね、という感想があった一方、初めての参加者への事前の説明が不足していたため、戸惑いも見られました。もっと「ひっぱる」「うながす」ための声かけが必要だと感じました。また、受け入れ側も、名簿の不備、スタッフの事前下見や打合せの不足などにより、参加者を待たせてしまうなど、対応に課題がありました。参加者の安全をしっかりと確保するうえでも、十分な準備と十分な説明が必要です。

講演会

りんごの木子どもクラブ主宰、絵本作家

柴田愛子さん講演会 子育てを楽しもう!

～子どもは自然の環境の中で、心も体も豊かに育ちます。大人も一緒に心身を開放しませんか～



子どもと向き合う柴田愛子さんならではのたくさんのエピソードを交えながらの楽しいお話しは、あっという間に制限時間を過ぎ、20分オーバー。200名を超える聴衆は、共感し、感動し、自分のことを見つめ直す機会となったようです。

なかでも印象的な言葉の数々を抜粋します。

なぜ、子どもは自分の髪の毛を切ることが許されなくなったか。親が思う可愛い子じゃなくなるから。親が子どもをペット化している。子どもは「自分のもの」を自分で使えない状況になっている。

いろいろな教育手法というものがあるけど、「どう育てたいか」、つまり、親が、大人が願うことばかりあることがおかしくて、主役は子どもで、子ども自身はどう育っているのか、と見方を変えてみよう。

基本的に子どもがやりたいことは保障しようという姿勢で子どもを眺めるようになって、(幼児教育が)面白くなった。

自然界は子どもの力量にあった、遊びの素材に満ちている。また、子どもも動物なのできちんと危険を判断しながら遊ぶことができる。しかし、自然の中に子どもをおけば育つか、というとそれだけではない。そこに魅力ある大人がいることが必要。子どもにも訳が分かる、とてもシンプルなくらしの中に興味や憧れを持つ。自然体験の時に魅力的な大人がいることが人間化していくためには大事。

子どもの「好き」「おもしろそう」「やってみよう」という感情、つまり心が動いている、ということはとても大事なことです。心が動いて主体的に学んだことは、子どもの中に蓄積されていく。

子どもに寄り添うとは、理解とか解決とかじゃない。子どもは(大人が)分かってくれると思うと、感情が落ち着いてくる。子どもの内面に寄り添い、子どものやりたいことを受け止めることだ。

子どもは効率悪く、無駄多く育っていくもの。大人は子どもがやりたいことを保障すること。また、子どもは思いを言葉にするのは苦手だが、その表情は饒舌。子どもの表情を見て話しかけていくことが大事。

講演者：柴田愛子さん（りんごの木子どもクラブ代表/保育者/絵本作家）
時間：13：00-14：20

休憩時間

多治見の自然の中で子どもを育む森のようちえん

「森のわらべ多治見園」テレビ取材のDVD上映

豊かな自然の中で、大人も子どももつながりあい、育ちあい、生きる力をはぐくむ……。園の取り組み



岐阜県内の森のようちえんの先駆け「森のわらべ多治見園」の浅井智子さんから、TVの取材を受けた際のDVDを紹介してもらいました。

森のようちえんで大事にしていること、事故があったときの対応（今回はママシの事例）がまとめられており、これから始めたいという人にわかりやすく、参考になったと思います。

発表者：浅井智子さん（自然育児 森のわらべ多治見園 園長）
時間：上映 15 分

パネルディスカッション

「子育てを楽しもう!」講演を受けて

柴田愛子さん×小菅江美さん×萩原ナバ裕作さん

「子どもを通わせているのだが……」「森のようちえんを自分たちでやるには?」。実践者たちに聴いてみよう!

柴田愛子さんをはじめ、実践者でもあり、豊富な経験を持つ森のようちえんてくてく（新潟）・園長 小菅江美さん、岐阜県立森林文化アカデミー・准教授 萩原ナバ裕作さんを迎えたパネルディスカッションが行われました。

柴田さんの講演を聞いた聴衆からの質問に答える形で話しを展開しました。



Q: プレーパークで娘が同じことしかしないが大丈夫か? (他に楽しいこともあるのに)

A: 毎日同じようでも、子どもには微妙に違う。好きなことはトコトンやろう! (柴田さん)

A: 保護者は成果が見えてこないと思っちゃうからね (ナバさん)

A: もしかしたら他のことで友達とコミュニケーションとる自信がないだけかも。そういう見えない気持ちに寄り添う大人がいてあげてもいいかも (小菅さん)

Q: 子どもとのやりとりより、保護者（特に 30 代～ 40 代）とのやりとりが難しいと思うときがあるが、どう対処しているか?

A: 自主保育って正直面倒だね (笑)。けれど、子ども心が無い人はいない。大人が一線を越えられる体験をさせてあげてみては? (柴田さん)

A: お母さんたちに「なんだか森って楽しい」とか「森だと大きな声で子どもをしからなくてもいい」と実感してもらおうといい (小菅さん)

A: 自主保育の中で、「みんなで育てている」って感覚を持つことが大事だね (ナバさん)

Q: 森のようちえんを立ち上げたいと思っているが、苦労した点など教えてほしい。

A: 1人でやり始めることは意外と簡単。後についてくる仲間づくりに苦労する。素敵な仲間づくり頑張る (小菅さん)

A: 子どもを集めるのが大変。宗教ですか? って言われたり (笑)。私もスタートは2人きり。でもその2人がいたから今がある (柴田さん)

A: 「森のだんごむし」も最初は3人。でも、そのころの森のようちえんが一番楽しかったかもしれないなあ (ナバさん)

パネリスト：柴田愛子さん（りんごの木子どもクラブ代表、絵本作家）
萩原ナバ裕作さん（岐阜県立森林文化アカデミー准教授）
小菅江美さん（森のようちえん てくてく 園長）
時間：14：30-15：30

分科会①

「森のわらべ」の10年を振り返って
その軌跡から見えてくるもの……講師：浅井智子さん（自然育児 森のわらべ
多治見園・園長）

「森のわらべ」の10年は、森のようちえんを「運営」していく上で、大事なことを教えてくれる道しるべでもあると思います。森のようちえんに携わって10年の、苦悩と喜びに満ちた歩みを綴った年表を振り返りながら、子どもだけでなく、そこに携わる大人たちの在り方を問う森のようちえんの醍醐味を分かち合いました。



2004

きっかけは 2004 年愛知県春日井市の森のようちえんとの出会い。「知ることは感じることの半分も重要ではない」というレイチェル・カーソンの言葉に感銘を受け、入園を決意。その後の4年半では、立ち上げスタッフの方向性の違いから分裂もあった。保育においてはプロでも運営においては素人集団の集まりである森のようちえんでは、こうしたことは珍しいことではなく、全国の森のようちえんで見られること。分裂後、2006 年正規スタッフへ。2007 年には園長代理に。自分たちの園の発展だけを考えていては拡がらない。森のようちえんに対する認知を増やすことが大事と、講演会活動開始。2008 年森のようちえん全国ネットワーク役員就任。

2009

地元多治見で、森のわらべを開園。年少さん2人からスタート。未就園児対象の親子組は当初から満員。月1開催の「森わら広場」も人気。地域での需要の高まりを感じる。

2010

保育料値上げ、スタッフ退職などにより園存続のピンチ。以降、園児は増えてきたが、入園時には両親ともに志望理由を記載いただき、面接をし、森での育児への覚悟を問う。

2014

園長として初めて、自分が園長をやっているでもいいのだろうか、辞めたほうがいいのか、と思うような試練があったが、アドラー心理学やカウンセリングの手法とも出会い、大きな心持の変化を経験し、ありのままの自分に OK を出せるようになり、保育や運営の面白さから現場を離れられず今に至る。

2015

現在、税理士との契約、新HP開設など、森わららしさを伝えていくことを大事に、今も進化&深化を遂げている「森のわらべ」。

分科会②

日常の遊び場
～だれでも始められるはじめの一步講師：前野学美さん（たじみプレーパーク楽
風）/ 諸橋なつきさん（おうちプレーパーク）

講師兩名から、プレーパークを始めたきっかけやこれまでの経験を話してもらい、参加者がそれぞれに「はじめのいっぽ」を踏み出せるよう、背中を押す分科会となりました。



たじみプレーパーク楽風

- たじみプレーパーク楽風の活動の様子から、子どもたちの遊びの魅力を知る。
- 講師が楽風を始めたきっかけを聞く。
- 「日常のほっとできる」「学校でも、家でもない第三の」「のびのびとできる」「どんな家庭の子どもでも遊ぶことができる」そんな場所でありたいと思い活動をしている。

おうちプレーパーク

Q: どんどころ?

A: 町中の空き家を活用。毎週水曜日放課後、近所の子どもたち 20 名程が歩いて集まってくる。

Q: どんなことしてる?

A: 木工や焚き火など自由な遊びだけでなく、おうちならではの暮らしの手仕事も遊びの一つとして行っている。(梅仕事、干し柿、味噌作り、畑など)

Q: はじめたきっかけは?

A: イベント的な非日常ではなく日常の子どもの居場所をつくりたいと思い 1 人でもできる規模で始めた。

「はじめのいっぽ」で大事なこと

- 仲間・場所・お金・広報などにこだわらず、まずは出来ることから始めてみるのが大切である。
- 両活動だけではなく、もっと小規模で始まった「一畳プレーパーク」(埼玉県)を紹介。
- 子どもを温かく見守る大人がいる日常こそが大切でありそれは近所の子どもたちを気遣う「あいさつ」からでも始められる。

分科会③

遊びの中で生きる力を育てる ～子どもの遊びはAKB!?

講師：渡部達也さん・美樹さん（NPO 法人
ゆめ・まち・ねっと）

「子どもの成長・発達の結果であって目的ではない」。遊びの価値と子どもの育ちの関係について、大人と子どもでは理解が違うということを気付かせてくれる分科会でした。



- 大人が企画するプログラムやイベントは 11 年間、一切せず、子どもの自由で主体的な遊びを保障することで「遊びの中で生きる力を（自ら）育てる」場を開いてきた。そんな活動の名場面・珍場面の数々を「遊びのAKB(あぶない、きたない、ばかばかしい)」という切り口で紹介。
- 大人が期待する育ちには、勤勉性、協調性、自律性、社会性などがあるが、それらは子どもたちが自由に遊ぶことで獲得していく。例えば勤勉性は、大人の設定した課題をキチンとこなせば身に付くのではなく、子どもたちが「楽しむために」自ら課題設定して遊ぶ中で培われる。
- そうした遊びの中で育つ生きる力が検証もされている。大人に対して「困ったときも前向きに取り組むか?」と聞くと、子ども時代に自然体験が多かったと答えている群は Yes36.4%、少なかった群は Yes9% と明かに差異がある。（詳しくは国立青少年教育振興機構のHP参照）

Q: 生きる力をつけること以外に、「学び」や「勉強」についてはどう思いますか？

A: 「学び」が誰かを幸せにしたり、社会をよりよくしたりするために使われるのであれば、勉強もあり。そうした思いで、平日夜、プレーパーク育ちの子どもたちの勉強を見たりもしている。

Q: プレーパークを開きたいが、公園内で火を起こしていい場がなかなか見つからない。

A: 公園は市民のものであって、市役所はただの管理人。役所にはまずそれを理解してもらいたい。その上で、焚き火の効用を共有したい。火を使いこなすことは災害時などにも役立つ。焚き火周りで舞うのは社会性を育てる。

分科会④

森のようちえんにとって好ましい場所づくりとは？ 環境モデル林で考える 森のようちえん

講師：萩原ナバ裕作さん（岐阜
県立森林文化アカデミー）



行政による里山整備・遊び場づくりをしていく上で忘れてしまいがちな大切なことを再確認。今回の会場となった古城山をはじめ、県内各地に「本当の遊び場」を行政からしっかりと応援してもらいながら、「市民の力」でつくっていききたいものです。そうすれば、市民も森も、そして地域も良い方向へと育つことでしょう。

県が整備し、市と地元団体が運営している古城山環境保全モデル林を会場に、グループに分かれてフィールドを自由に歩いてもらい、「もしここを子ども達の遊び場にするとしたら、何があったらいいか」を話し合いグループ毎にアイデアを発表してもらいました。

- ハンモック、ツリーハウス、キャンプ場、チェンソー体験、夜の森を探検、ヤギを飼って畑もつくって里山の暮らし&持続可能な暮らしの体験場にしたいとか、子どもだけでなく大人が集える場所にしたいとか、管理棟（ログハウス）をもっと解放（土足禁止ではなく）したいなどユニークなアイデアがたくさん出ましたが、参加者からこんな意見が……。待てよ……。いろいろあるのも楽しいけれど、「生きる力」の強い子を育てたいのであれば「何もいらないのでは」……という意見に皆「ハッ」とさせられた。
- 「何かをやらせよう」「つくってもらおう」のではなく、「遊びも楽しさも自分たちで創ることが重要。必要なのは、設備でも遊具でもなく、自分たちで遊び場をつくれるための「道具」と「自由に手を入られる環境」そして「そこで過不足なく関われる人」につきる！」という意見に会場から拍手！

オフショット



裸足で裸でおもいっきり遊んだ子ども達



夜の交流会のごはんは羽釜炊き



火を囲み音楽を奏で踊る自然にできる人の輪！

分科会⑤

森のようちえんにおける安全管理 ～森のわらべの実践より

講師：奥村則子さん・山口貴子さん(森のわらべ多治見園)



主に、森のようちえんに興味がある、始めたいと思う人向けに「森のわらべ」での安全管理について紹介し、学びを得てもらう機会となりました。カエンタケに触れた場合に備えての石鹸水に関する質問があったほか、森のわらべ多治見園の保護者からスタッフに改めて敬意と感謝を伝える場面もありました。

毎日のこと

- 毎日の活動中に持ち歩くもの
緊急連絡先ホルダー、個人体調記録(毎朝記入)
- 車に常備しておくもの
非常用持ち出し袋、チャイルドシート、非常用品BOX

年間を通して

- 危険(生物)については子どもに何度も伝える
- ポイズンリムーバー使用の練習
- 避難場所、ルートの確認、災害用伝言ダイヤルの練習
- 普通救急救命講習の受講
- 保険の説明

〈マムシ咬傷事故をふまえ〉

毒ヘビについての知識を習得、共有。ヤマカガシとマムシの違い、マムシの個体差と幼態について、マムシにかまれた後の状態など。事故への備えとして、血清のある病院を調べる、事故予防のための情報共有、保護者との信頼関係の構築などが大切。

分科会⑥

森のようちえんってどんな保育? ～大切なことを「続けていく」こと

講師：小菅江美さん(森のようちえん てくてく)

森のようちえんを始めて10年。一人では出来ないけれど、子どもたちを含め、関わる人みんなの力を信じることで、誰もが役割を持つこと、それが「続けていく」上で大事なんですね。



- 教員時代に馬を学校で飼育したときのこと。作文や作画が、馬を通して進んでいく。原稿用紙が足りないくらい書ける。心が動くことがないと本来の主體的な学びが生まれないのでは?
- 2004年、絵本がきっかけでデンマーク視察。子育て広場を週1からスタート。2006年、毎日やろうと思いつ。最初の園児はたった一人から。でも仲間がいるから励みになる。
- デンマークを視察してみて、日本の風土には、森のようちえんというより里山の中にある暮らしを作るといことが大事と思った。毎週2回は火を扱うようにしている(調理や暖房)。
- 子どもたちが歩いているとき、先頭にも後ろにも先生は付かない。少し離れたところから見ている。介入しない。どろどろになりながら助け合いながら目的地に到達する。
- 「信じている」というベースがあれば待つのが楽しくなる。大人がひっぱるのは小学生になってからでも充分。ちょっと待つてみることで成長の芽が見えてくる。
- 山の所有者さんに管理を任せられたとき、園児のお母さんたちに相談してみた。お母さんがチェーンソーを持つ、椅子をつくる。覚悟が決まった。みんなで森づくりを始めよう!

- 森のようちえんは、みんなが森を大切にしているからできる。みんなそれぞれに力をもっている。薪割りをしている横で見て子どもは「お父さんになりたい」と思う。
- 今の暮らしは簡単すぎて人の力がいらぬ。でも森の暮らしは人の力が必要。人の価値を高めることが大事。

分科会⑦

行政がはじめた森のようちえん 美しいふるさとの風景を残していくために

「森のようちえんは『行政が手を出すほどに素晴らしいものだ』と市民に思ってもらえるよう活動していきたい」という美濃加茂市の意気込みが参加者に伝わり、大盛り上がりの分科会でした。

美濃加茂市長 藤井浩人さん・
里山再生プロジェクト



市長講演 美濃加茂市長 藤井浩人さん

- 美濃加茂市では人びとが里山とどうやって付き合っていくのかを考えている。(美濃加茂市の『里山千年構想』はHPを参照)
- 行政がやるべきこととは「利益を度外視してもあるべき姿を示すこと」
- あるべき姿とは、「自然に活かされているという感覚をもつ」「自然と共生していく」ということ。

里山再生プロジェクト 今井英里さん

- 森のようちえん活動前に、近隣園児を対象に「ヤギさんふれあい教室」「しいたけ菌打ち体験」を行い、好評を得た。
- プロジェクト2年目にイベント型の森のようちえんを開催。10名の定員に倍ほどの申込あり。市民の関心の高さがうかがえた。
- 市が主催することで、森のようちえんの知名度や正しい認識が広がっていくのではないかと。市長が活動に姿を見せ自ら参加することで、より伝わっていく。

意見交換

— 行政と民間で、求める実績がズれている。森のようちえんの経験が小学校で途切れてしまう。

Q: 市主催の財源は?

A: 里山整備には補助金があるが、森のようちえん自体には出ていない。今後は人件費と保険料をつけたい。

Q: 行政をうまく活用するにはどうしたらいいか?

A: 行政側にメリットがあることを示す。行政には市民が納得する形でお金を使う使命があるため、メリットが明確でないと動けない。

— 美濃加茂市としては、里山プロジェクトは山の整備、維持管理を行うことを目的としている。里山の大切さを何とか子ども達に伝えて、里山を守ってってもらいたいと考えている。そのために、「森の小学校」「森の中学校」などの活動も行い、学びのサイクルをつくっていききたい。

分科会⑧

お母さんのための森づくり講座 山でできることを考える!

講師：寺田菜穂子さん(林業女子会@岐阜)

森との関わり、森の機能について、資料をもとに学んだ後、「私たちができること」は何か話し合いました。林業に携わってきた者、そして母としての立場から見た女性でもできること、何をしたらいいか、を考える分科会は、全員が発言できる少人数ならではのアットホームな時間となりました。



森に入って直径15cmほどのヒノキを間伐体験。ノコギリでの伐採は、意外と重労働で、1本の木を伐り倒すのに何人かで交代して伐りました。最後は安全のためロープで引っ張って倒しましたが、倒れた時の振動に感嘆の声があがりました。伐ったばかりの木のみずみずしさにもびっくり。皮をめくるとツルツル!

フリートーク

- 子どもたちに林業の現場(重機が動いているところなど)を見せたいと思うが、「危ないから……」と言われる。
- ノコギリを持って山に行き、木の枝を切ってみることからやってみては?
- 自由に使わせていただける山や森があるので、整備もしてみたいと思うけど、どんなことができるのか、どの木を伐ったらいいのか、どんなことに気をつけたいのかかわからない。
- だるま式ストーブで木の葉や枝を集めて燃やすなど、子どもや女性でも出来て山もきれいになる活動をしてみたらどう? また、県に相談すると地域のボランティアさんを紹介してもらえたりする。森に目を向けるきっかけづくりとして「森の健康診断」という、素人でもできる森の測り方を教えてくれる活動もあるよ。

分科会⑨

森のようちえん 30年続けて見えてきたこと 森は発見の場、自分で考え行動する、危険や怖さを知る場!

講師：内田幸一さん(森のようちえん全国ネットワーク) 運営委員長

内田さんから参加者へ「発見し、能動的に行動する子どもを育てる取組を行っている人たちには自信をもってほしい、自分たちの足元に宝物があることを忘れないでほしい」とのメッセージがありました。

- 欧州の森のようちえんは先生のキャラクターにより特色が異なるが、日本はやや硬直的な印象がある。
- 日本の森のようちえんが近年増えている理由は、子どもが現代社会から受ける影響を回避しながら、その子らしく成長する機会を与えてくれると考える人たちが増えたこと。自然志向・健康・エコロジー等の社会意識が背景となっているものと思われる。



森は発見の場

しかし子どもが何を見つけるかは問題ではなく、子ども自身がつける、という行為が重要。大人は森の不思議について教えずに、不思議に反応してあげればよい。

森は自分で考え行動する場

大人は時間だけを保障する。子どもがヒマになること、飽きたりすることも大事。それを子どもが何とかしようとするのも大事。秩序を学び、自然をそのまま受け入れる場である。

森は危険、怖さを知る場

チャレンジをやめたり、試みたり、自分で決めていく。心の柔軟さと適応力を得る場。

Q: どのような条件の場所が、森のようちえんのフィールドとして良い場所といえるのか?

A: 私たちは、人口密集地から30分以内、遊べる場所がある、という条件で探した。地理的な環境、来てくれる見込みを調べる必要がある。

Q: 森のようちえんを卒業した子どもたちはどのように育っていくか?

A: 幼児期だけでその後の成長が決まるわけではない。森のようちえんで親が何を学んだか、いつも子どもを認めていく・コミュニケーションをとっていくこと、迷っている子どもを支える・話を聞く・共感する姿勢が重要。大人の側の度量が問われる。子どもは育てられたとおりに(自分の子どもを)育てる。子育ては孫を育てているのと同じ。(子どもに子育ての)手本を見せているということ。

Q: 指導案等、森のようちえんの教育手法はどうしたらよいか?

A: かつちりしたものがないでも大丈夫だが、森のようちえんの三要素、「環境(自然・森)(人員構成)」「プログラム(活動)」「保護者の関わり方・役割」は押さえておく必要がある。プログラムで埋め尽くす必要はない。森のようちえんは、先に経験・体験がある。例えば、素材を拾ってきて(何かを作るなど)活動に構成していく。だから活動に対して、つかみがよくなるので、やりたくないということにはなりづらい。内発的な動機で行動を起こすスイッチを入れることをしている。

分科会⑩

子どもは今を輝いてこそ生きる
～遊び場のステキな子どもたち講師：渡部達也さん・美樹さん（NPO 法人
ゆめ・まち・ねっと）

「たごっこパーク」「おもしろ荘」「子ども食堂」等の取組みをスライドショーで紹介してもらった後、子どもたちを取り巻く環境に関するデータを交え、子どもたちの居場所づくりの必要性を語っていただきました。

子どもたちを取り巻くさまざまなデータ

- 全国で校内暴力が発生した小中学校（H25）
46,974件／1,021万人 岐阜県 ワースト5位
- いじめ認知件数（H25）
173,996件／1,021万人 岐阜県 ワースト13位
- 中学校の不登校生徒数
95,442人／353,618人 岐阜県 ワースト4位
- 児童相談所相談受件数
73,802件 岐阜県内の児童虐待 996件



- こうしたデータから、生きづらさを抱えながら、日々を生活している子どもたちがいかに多いかが見えてくる。とくに岐阜県の指標は全国比でも悪い分野が多い。岐阜県では他県以上に森のようちえんやプレーパークを盛んにして、子どもたちの生きる力を育てていく必要がある。
- 「遊び」によって社会性を身につける。子どもたちを仮想空間に追い込むことなく、つながりたい。
- 東日本大震災の被災地に足を運ぶ中で、子どもには何げない日常が大切であり、それを保障する遊び場が必要であることを実感した。

分科会⑪

森では子どもより大人が育つ？
～親育ちにまつわる座談会講師：浅井智子さん（森のわらべ多治見園）
林育子さん（じゃんぐる☆ぼっけ）
小菅江美さん（森のようちえん てくてく）

「親育ち」とは、大人が子どもと一緒に成長すること、森はその最適な場所。森のようちえんは親自身がやりたいことができる場所であり、親がやりたいことを実現してあげる場所なんです。



座談会

- 普通の保育園に入れるのではなく森のようちえんに子どもを入れる事は勇気がいること。それができると自分で「親育ち」ができている。
- 「森のようちえん てくてく」の保育部門を開設する際に保護者との話し合いを設けた。
 - * 保育部門開設に伴い「そこまで広げる必要があるのか」というような反対意見が多くあった。反対してくれる人は、自分のことのように考えてくれる人であるので、一番の協力者となってくれる。
 - * スタッフはフル回転で活動している。その頑張りに見合う環境を用意しなくては、続かない。
- 母親が育ってきた環境と違う環境で子どもを育てるのは難しい。自分の子どもの頃にされた事以上に子どもに接することができない母親が自分を責めてしまう。しかし、そんな母親が森のようちえんに関わることで、森の中で気持ちが緩んでいける。自分はみんなに支えられているのだと感じて、自分にOKが出せるようになることが「親育ち」でもある。
- 子どもだけでなく森のようちえんに関わっている大人たちも、育ちの力を発揮していく。年少の終わり～年中の始めにかけて、このまま森のようちえんにいてもいいのかと不安に思う時期が来る。それを乗り越えて卒園を迎えた親は、子どもの育ちの力と、仲間との子育ての面白さを実感し、森での子育てに自信を深めて巣立っていく。
 - * 森のようちえんに入っている不安。それを誰かに認めてもらえた時に安心できる。
 - * リーダーの熱い想いも大事。
 - * 森のようちえんスタッフが言いたいことを言える場に、それを受け入れる場にする。

「子どもの言葉を聴き続ければ、いつもいつも（居場所に）来ることができる。聴き続ける先の希望がある」という言葉がありました。誰もができる、子どもとの関わり方ではないでしょうか。

- 「障害（しょうがい）」の「碍」は、流れをせき止める石を意味する。障害のある子どもには、目の前に生活の流れをせき止める石がある。こちら側の工夫で流れを確保してあげれば、生きづらさが軽くなる。
- 相手に安らぎを与え、受けとめる力が母性性。やってはいけません、あれをしなさいというのが父性性。森のようちえんやプレーパークは、母性性に包まれた遊び場であり、居場所でありたい。素の自分でいられる、安らげる、分かちあえる、そんな空気を育みたい。
- 活動の中で、母子家庭の母親に会ったら伝えてほしい。母子家庭だから非社会的、反社会的な行動を子どもが起こすわけではない。ただ、母子家庭では往々にして、母親が父性性を強めてしまう。そうなると子どもは安らげない。「お母さんはお母さんのままで優しく、温かくね」と伝えて。
- 生きづらさを抱えた多くの子ども・若者との出会いから、非社会的、反社会的と呼ばれる行動は、生きづらさを表現しているのだとわかった。みなさんには、生きづらさを抱えた子どもを気遣える大人であってほしい。そんな大人との出会いが、子どもたちを希望へと導くのだから。



地域の子ども・若者とつながり続けるための「プレーパーク」の条件

- 子どもの生活圏にある
- 参加費無料
- 親の申込不要
- 年齢制限なし
- 障害（しょうがい）の有無不問
- 登校不登校不問

森のようちえんや野外保育の“社会化”に向けた取り組みについて、長野県の事例をもとに紹介していただきました。

- 信州型の自然保育園は、長野県内に12～13箇所。大きいところで30人、小さいところで10人程度。
- 「こどもの森幼稚園（長野市）」は、日本で唯一の認可園の森のようちえん。
- 森のようちえんを制度化するために県に意見を上げるにしても、統一窓口が必要だった。野外保育連盟は8箇所の森のようちえんで勉強会や研究会を行うところからはじまり、連盟がスタートした。連盟設立には知事が立ち合い、知事直轄の「次世代サポート課」が担当となった。
- 信州型自然保育の委員会メンバーは無認可の団体が多かったので、認可園や大学関係者など各方面の反発が強かった（認可園でも人数が減ってきている。自分達の援助の前になぜ森のようちえんの援助が必要なのか？ しっかりした保育ができるのか？ という声）。



基本理念

- ① 生涯を見渡した保育・教育の実践
- ② 多様な保育に基づく、総合的人間力の育成
- ③ 長野の自然を子育て・保育に活用すること

県の基準

- 1日5時間以上自然に出ている⇒「特化型」
- 1日1時間以上自然にでている⇒「普及型」

研修制度

- 認定団体は研修会に参加し、報告書（年間計画、保育案、免許や資格の有無）を作成し、HPIに掲載。その活動を県が担保する。
⇒最終的には補助金を充てたい。
- 信州型自然保育認定に関する説明会にも多くの市町村関係者が参加した。子育て世代の移住を進めることになる。情報の共有から“社会化”へ。
- 「野外保育“学会”」の立ち上げにより、今後、森のようちえんが学術的・科学的に研究されるようになる。

質疑応答

Q: 認定制度のデメリットは？

A: 時間に縛られる、有資格者の有無、場所が合うかどうか、研修制度への参加が必須であること。

Q: 横のつながりと、行政とのつながりをどのようにすればよいのか？

A: 園児の数を足せば結構な数になるはず。いくつかの団体が集まれば、行政側との連携の安心材料となる。

Q: 親の私たちが出来ることは？

A: 母親は保育の専門家ではない。家庭の技術（料理や裁縫など）を一緒にやって教える。家庭では、生活のことを教えることが大切。

Q: ぎふ木育大交流会で得たこと・学んだことは何ですか？

- 森のようちえんのスタッフと親の想いのギャップは、いつの間にか埋まっているものだと気付いた。
- 森のようちえんのスタイルが気になる人と気にならない人の間の溝も、子どもと一緒に見ていれば埋まると気付いた。
- 自分の家庭を子どもが安心できる場所にしたいと思った。これは私にも出来る。
- 「森のようちえん」も「プレーパーク」も大事なことは一緒。みんなつながっていると気付いた。
- 「活動」に注目されがちだが、むしろ日常の暮らしの積み重ねのほうが大事だと気付いた。
- 相手の家庭の背景によって、(森のようちえんが) 受け取ってもらえるかどうか、受け取り方が違うと気付いた。
- 森のようちえんと普通の園では一見同じようなことをしているようで、そのきっかけの与え方が違う。お母さんだからこそ出来ることがある。
- 森のようちえんと普通の園が平等に選べるようになるといい。
- 子どもを信じるということは、子ども自身の「生きたい」「成長したい」を大事にすることだとわかった。
- 「子どもを育てる」ことはイコール「孫を育てること」。つまり、自分の与えた影響がその子の子育てに影響する。

Q: 「これから自分にも出来ること (やってみたいこと)」は何ですか？

- フリースクールをつくる!
- 市民側の心の器を広くする (行政の立場も理解し、一緒に話せるように)。
- 行政と話をする場を自分でも企画してみようかなと思っています!
- 森づくりに関わりたい。技術を学びたい。

>>> 以下、アンケートの回答から抜粋

- 自分は、考え方を広げる活動をしていきたい。
- 地域の山を子どもの遊べる山にする。地域の人に理解していただくことは自分にも出来る。
- 森のようちえんの活動に積極的に関わっていききたい。森のようちえんの良さ、やりたい意欲をアピールしていき、多角的アプローチをしていきたい。
- 地区内唯一の娘の同級生のお母さんに自然を活かした保育をしよう!と誘ってみようと思います。



Q: 行政に期待することは何ですか？

- 担当者がコロコロ変わらないこと。
- 地域住民との調整、コーディネート。
- 今回の大交流会のような行事に、教育委員会や子育て分野など、分野を横断的に関わってほしい。
- 県のお墨付きで広めてほしい。
- 普通の園と同じ選択肢の中で選んでもらえるようにしてほしい。
- 小規模でもいいので、市民と行政と一緒に話せる場を設けてほしい。
- わが市は第3子は幼稚園保育園の費用がタダなので、同じように森のようちえんも援助してほしい。
- 安心安全な森づくりをすすめてほしい。

>>>以下、アンケートの回答から抜粋

- 担当部局をまたいで、森林、公園、子育て、地域振興など各施策を融合させた取組を県にお願いしたい。現在プレーパークで活動しているが、行政からの援助がより幅広く得られると心強い。
- 学校生活で選択できることを広げてほしい。特に中学校の学習や部活などの締め付け・管理を軽くしてほしい。
- 空き家を利用しておうちプレーパークしたいので、このような企画にそれぞれの市職員が参加してほしい。地域の方とのパイプ役になって、空き家や田畑を使ってほしい人と使いたい人をつなげてほしい。
- たき火で日常的に遊べる遊び場を整備してほしい。
- 活動に行政はお金を援助してほしい。どんな活動をしているのか現場に来て現場の声に耳を傾けてほしい。
- こういった木育大交流会をぜひ毎年してほしいです。毎年は無理でも、何年かに1回でもいいです。
- 行政には、もっと森での子育てにお金を出してほしい。お金じゃなくても具体的に…、国有している森や、県・市の保有している森を開放してほしい。

参加者申込者

1日目 438名(うち、子ども191名)

2日目 305人(うち、子ども138名)

参加者申込者の居住地別人数

岐阜県内

岐阜市	56	美濃市	6
美濃加茂市	55	恵那市	4
多治見市	53	大野町	4
土岐市	21	川辺町	3
可児市	16	神戸町	3
関市	16	白川村	3
各務原市	15	富加町	3
郡上市	14	中津川市	3
大垣市	12	羽島市	3
高山市	12	飛騨市	3
不明	10	瑞浪市	3
八百津市	7	本巣市	3
瑞穂市	6	揖斐川町	2

北方町	2
七宗町	2
御嵩町	2
笠松町	1
下呂市	1
白川町	1

愛知県

豊田市	62
名古屋市	8
犬山市	6
みよし市	6
扶桑町	5
豊橋市	4
一宮市	2
春日井市	2
瀬戸市	1

三重県

いなべ市	3
津市	1

長野県

飯田市	3
長野市	1

奈良県

葛城市	5
橿原市	2
桜井市	1
生駒市	1
下市町	1
奈良市	1

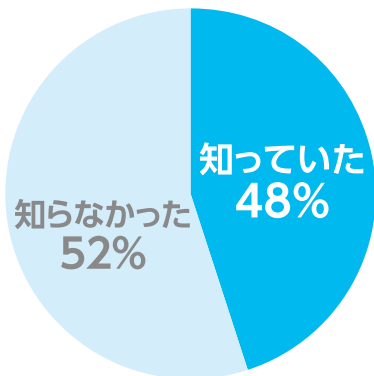
その他県外

静岡県浜松市	5
鳥取県鳥取市	5
滋賀県高島市	4
京都府京都市	4
宮崎県都城市	3
東京都足立区	1
千葉縣市川市	1

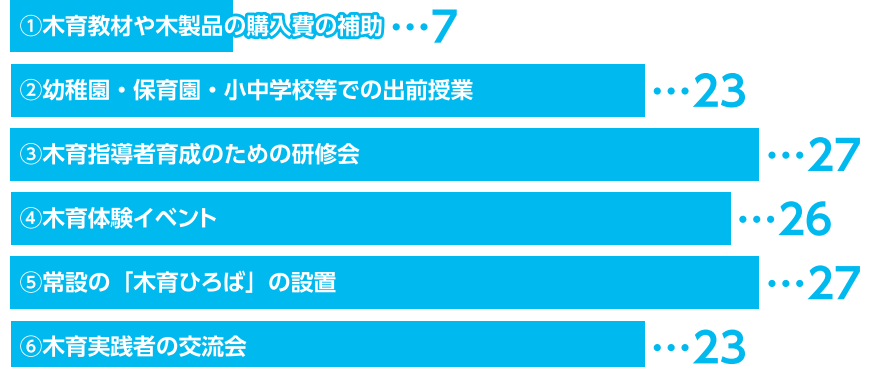
参加者アンケートの結果

アンケート回答者数：57名

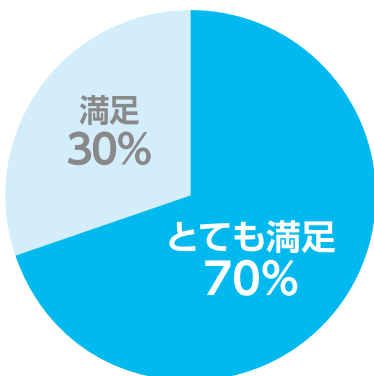
Q: 「ぎふ木育」という言葉を知っていましたか?



Q: 「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用して行っている「ぎふ木育」の取組みのうち重要だと思うものはどれですか? (複数回答あり)



Q: 「ぎふ木育大交流会」参加してみて満足度はどの程度ですか?

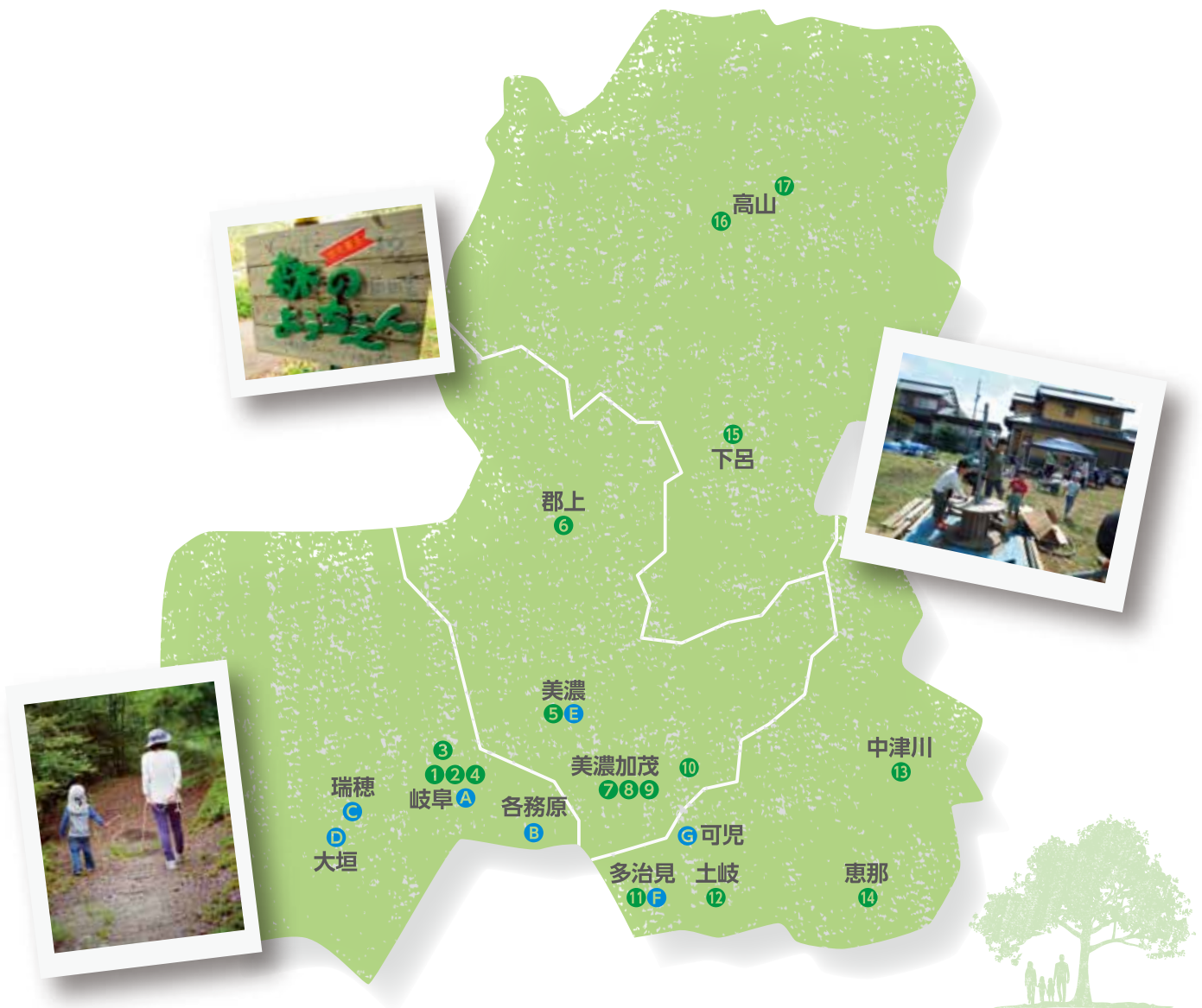


Q: 上記以外で必要だと思うことは? (抜粋)

- 「自然の家」等の宿泊研修施設の精神を引き継いだ民間宿泊施設への援助
- 森のようちえん、森の小中学校、プレーパークが県立に
- 森のようちえんの認証制度。プレーパークの大普及（小学校区に1つはほしい）
- 森のようちえんやプレーパークへの補助
- 森のようちえんも幼児教育に選択肢の1つにすること
- 森のようちえんの認知を高めるための広報活動
- 森のようちえんや自由な小学校に通うための金銭的な補助がほしい。移住促進にもつながると思います
- 火や水が使えるように森を開放すること
- 森でのびのび遊べる場のスタッフの育成、フィールドの確保
- 森林公園の整備（崩れてしまった橋を直してほしい、使われていない小さな小屋を使わせてほしい）
- 年齢決めず、たごっこパークのような場。子どもが自分の足で行け、常設である場
- 子どもが育つうえで何が大切なのか、行政、市民、議員ともに継続的に学ぶ場が必要

岐阜県内の森のようちえん & プレーパーク MAP

※平成27年9月現在で岐阜県恵みの森づくり推進課が把握している限り



①ぎふ☆森のようちえん ※現在新規受付は行っておりません。
活動日：主に第4日曜日
活動場所：ながら川ふれあいの森(岐阜市)
活動の特徴：対象年齢が広く(1歳～小4)、各学年に対応したクラス分け。経験、知識豊富な指導者が集まっており、子どもたちの遊びの発想を存分に引き出しています。

②ぎふ☆ほしのご森のようちえん
活動日：月・火・木・金
活動場所：ながら川ふれあいの森(岐阜市)
活動の特徴：1歳半から親は無しの子もだけで通う園です。子どもが自分達で考えて行動する、待つ保育をしています。

③ぎふ森の妖精ようちえん
活動日：月・火・木(2歳～4歳預かり) ※コースによって異なる。
活動場所：岐阜市佐野の里山
活動の特徴：フィールドの多様性(山・畑・田んぼ・小川等)。子どもに寄り添う保育の場としての面と、森の専門家を通しての深い学びが出来る面があります。

④ながら幼稚園
活動日：年間25～26回
活動場所：ながら川ふれあいの森(岐阜市)
活動の特徴：一般的な認可幼稚園が正課で活動する、融合型の森のようちえんです。年中、年長が対象で、学年全員で園バスで森へ向かいます。

⑤森のだんごむし
活動日：平日毎日
活動場所：岐阜県立森林文化アカデミー(美濃市)とその周辺
活動の特徴：自主保育による森のようちえん。活動の大半は森の中ですが、山の中の囲炉裏付きの小屋や炊事場も利用し、自然体験に、「生活」の要素も取り入れています。

⑥山の家たんけんたい
活動日：週2～3日
活動場所：郡上市の山や川やキャンプ場など
活動の特徴：里山をたんけんして、自然豊かな郡上の四季の移ろいを五感で楽しめます。子どもに願う姿：自分で考えられる子(やりたい遊び、仲間との関係)。大人が目指す姿：子どもたちの力を信じて待つ、大地のような存在。

⑦おさんぽの会 ありんこ

活動日: 毎月第2・第4火曜日
活動場所: みのかも健康の森(美濃加茂市)
活動の特徴: 主役の子どもたちは思いのままに動きます。大人は見守りながら後に続きます。芝生を思いっきり走ったり、坂道を下ったり、移りゆく自然の中で親子で楽しく過ごします。

⑨美濃加茂市 森のようちえん

活動日: 年4回程度
活動場所: 平成記念公園未利用地(美濃加茂市)
活動の特徴: 活動の特徴:美濃加茂市では、昔からの山の姿を取り戻し、里山の魅力を再生、維持管理する「里山千年構想」の一環として、「子ども達の遊び場としての里山」をテーマに、森のようちえんを行っています。

⑪自然育児 森のわらべ多治見園

活動日: 月~木(3学期は年長のみ月~金)
活動場所: 多治見市内の森、里山、畑、公園
活動の特徴: 子どもも大人も育ちあう温かい居場所創りをめざし、「信じて待つ」を基本理念として、ようちえん・親子組・仲間組・森わら広場を展開しています。

⑬☆風の子☆山のほいくえん

活動日: 毎週月曜日
活動場所: 中津川市内(苗木、蛭川、福岡等)、雀のお宿(恵那峡)
活動の特徴: 豊かな自然の中で、春夏秋冬、季節の移り変わりを肌で感じながら土や水、木、草花、虫とふれあい、のびのびと思いっきり遊ぶことを大切にしています。森のようちえん、さくらさくらんぼ保育を参考にしています。

⑮皇樹の杜ようちえん

活動日: 毎月第3日曜日
活動場所: 下呂市萩原町四美地、皇樹の杜炭焼き小屋周辺
活動の特徴: 次代を担う子どもたちの健やかな成長を願って、目、鼻、耳、口、手をフルに活かして、楽しい自然遊びと環境教育を行っています。

⑰森と暮らしの遊び場 おひさま

活動日: 月~水
活動場所: 高山市丹生川地区、市内民有林等
活動の特徴: 親子で集い、みんなで創りだす共同の空間。自然と調和した持続可能な生き方、暮らし方、子育てを発信。こどもも大人も楽しめる森と暮らしの遊び場であり、子育て&自分育ての場です。

㊀各夢ON! かかみがはらプレーパーク

活動日: 第3日曜日
活動場所: 各務原市鵜沼各務原町4丁目268-1
活動の特徴: NPO法人各務原子ども劇場が運営。0歳から100歳まで誰でも無料で遊べます。子どもの「やってみよう」や「ドキドキわくわく」がひろがる冒険遊び場です。

㊁大垣公園プレーパーク

活動日: 年末年始(と雨の日)以外、毎日
活動場所: 大垣公園(大垣市)
活動の特徴: 大垣市からの受託事業として実施しています。「ハレ」のイベントではなく、日常生活の中の“ケ”の出来事としてのプレーパークでありたいと思っています。

㊂たじみプレーパーク楽風 (らふ)

活動日: 月1回
活動場所: 多治見市立滝呂小学校裏山
活動の特徴: 「心が折れるより骨が折れたほうがマシだ!!」をモットーに、「危ない!汚い!早く!」そんな大人の言葉を気にせず子どもが自由に遊べる場所です。地元里山クラブが場所づくりに協力しています。

⑧ありんこ親子会

活動日: 土日祝のいずれか
活動場所: 美濃加茂市近隣の里山
活動の特徴: “おさんぽの会”の参加者で親子会をつくりました。それぞれの幼稚園へ入園してからもみんな仲良し。休日の一日をパパも一緒に野外で過ごしています。

⑩自然保育 こどもの庭

活動日: 火~金(水・金は親子の会も開催)
活動場所: 可児市内、美濃加茂市内、八百津町内の森や里山
活動の特徴: お母さんとスタッフによる自主保育を行います。保育は専任スタッフを中心に。園の運営はお母さんたちを中心に。みんなで協力して子どもも大人も育ち合う場を創ります。

⑫野外保育 森のようちえん じゃんぐる☆ぽっけ

活動日: 月・火・木・金(月・木は未就園児も)
活動場所: 陶史の森(土岐市)
活動の特徴: 大家族のようなちいさな森のようちえんです。ひとりひとりがありのまま輝き、それぞれのペースで育ちを楽しみます。自然の中でたっぶり遊び、たくましい心と身体を育み、命や暮らしのつながりを体感します。

⑭山里楽耕ぼうけんくらす

活動日: 不定期
活動場所: 恵那市山岡町イワクラ公園、上矢作町内河川公園等
活動の特徴: 主催者の活動内容が森林保全に関わるため、地元で多くの活動の場が確保でき、また、地域の年長者のサポートを得ることができます。大人も子どもも主体性を発揮し、一緒に成長していくとを大切にしています。

⑯森のようちえん ひだっこやまっこ

活動日: 火・木の午前中(週末や夕方の活動もある場合あり)
活動場所: 高山市内の自然公園他
活動の特徴: 「自然のなかで子育てしたい」という親が集まって設立。飛騨高山の自然の中でのびのびと、一人一人のペースで大人も子どもも個性が輝けるあたたかい場所を目指しています。

㊀A 冒険遊び場 てぢからねっこ

活動日: 月1回不定期
活動場所: 手力雄神社(岐阜市蔵前)
活動の特徴: 地域に根ざし、(心の)根っこを育みあえる場所になることを願い『てぢからねっこ』と命名。子どもたちをあたたかなまなざしでそっと見守り続けたい場所です。

㊀C アジトであそぼうプレーパーク

活動日: 第3日曜日
活動場所: 瑞穂市立中小学校東の空き地
活動の特徴: NPO法人キッズスクエア瑞穂が運営。子育てパパ「パパさんず」手づくりのアジトで、自分の責任で自由に遊びます。大人は「ダメ」と言わず、子どもの育つ力を応援します。

㊀E みのプレーパーク

活動日: 金曜放課後、月に1回は土曜日開催
活動場所: 岐阜県立森林文化アカデミー
活動の特徴: 木や布や糸で好きな物を作ったり、焚き火をしたり、森に探検に出かけたり、なあ〜んもしないでポーっとしてみたり。「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに「やってみよう」にチャレンジできる空間です。

㊀G プレーパーク可児 オノマトペ

活動日: 月1回
活動場所: 我田の森(可児市)・名城大学・里山
活動の特徴: 「オノマトペ」は擬音語です。ワイワイ・ドキドキ・ギャーギャー・ぐちゃぐちゃ……。プレーパークににぎやかな子どもとおとなの声・自然の音が響く……。そんなイメージでつけました。



大交流会から1カ月後。
準備会メンバーが再度集まり、
このつながりを継続していこうと
Facebookを中心とした団体を
立ち上げることとなりました。



また、今回の成果を「第11回
森のようちえん
全国交流フォーラム」で発表。
全国に向けて発信しました。



末尾になりますが、
「ぎふ木育大交流会」
を支えてくださった
ボランティアスタッフの皆さん
託児スタッフの皆さん
プレーリーダーの皆さんに
感謝申し上げます。



清流の国ぎふ憲章

～豊かな森と清き水 世界に誇れる 我が清流の国～

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

- 知 清流がもたらした自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます
- 創 ふるさとの宝ものを磨き活かし、新たな創造と発信に努めます
- 伝 清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

平成 26年1月31日 「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議

清流の国ぎふ



「ぎふ木育大交流会」は
「清流の国ぎふ森林・環境税」を
活用して実施しました。